

---

流星のロックマン 4 ~

?? mystery ~

nasubiboy

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星のロッキーマン4  
? ?  
mystery }

【Z-17】

N  
4  
6  
1  
5  
Z

【作者名】

n  
a  
s  
u  
b  
i  
b  
o  
y

【あらすじ】

地球の危機を3度も救ったロツクマンこと星河スバル。彼が中学生になるころ事件は起きた・・・ WAXA調査隊の謎からすべてが始まる。謎の大陸とは？ 闇の組織の計画とは？ すべての謎が解けた時、組織の計画とムー大陸滅亡の謎が解ける！交錯する想いと運命の中でスバルは世界を救えるのか？

記念すべき(?) なすびの一作品目! (流星シリーズ知ってること  
前提で書いてますんで宜しく)

## ブローグ ～WAXA調査隊～（前書き）

始まりました

駄文ですんません

これから100話目指して頑張ります

## ブローグ ～WAXA調査隊～

とある謎の地・・・

「こつこれは！あの大陸の遺跡？」

WAXA調査隊のリーダーは言った。

「リーダーこつこれは大発見ですよ！すぐにWAXAへ連絡を」

「ああ、勿論だ、これは人類史に残る大発見だろう。この大陸の発見は人類の発展にとって・・・」

と、その時・・・

グラグラグラ　ドドドドドド！！

「リーダーここ崩れます！はやく退避を　ぐ、ぐあー」

「・・・ポセイドン？・・・」

・・・これはスバルが巻き込まれる大事件の序章だった・・・

ブローグ 〜WAXA調査隊〜（後書き）

・  
・  
・

感想よろしく

## 中学校の準備（前書き）

やっと、学校終わりました

## 中学校の準備

ここはコダマタウン、ロックマンこと星河スバルが暮らしている。

「Z Z Z . . . Z Z Z . . .」

『おいスバル起きろ!!! 今日スピカモールに買い物だろ! ! !』

叫んでいるのはウォーロック。FM星育ちのAM星人だ。

「うーん．．．っは! いま何時?」

『8時半。約束は9時だぞスバル』

「やば〜い! 委員長に怒られる!」

朝ごはん、着替えを風のように済ませ、ギリギリのところでバス停へ。

「スバル君おそいじゃないの。まあいいわ、それよりゴン太よ!」

この女の子は委員長こと白金ルナ。あだ名のとおり小学校では委員長をやっていた。

中学校へ行ってもやるつもりらしい。

「ゴン太君、また牛丼ですかね。朝から牛丼って」

この小人のような少年は最小院キザマロ。マロ辞典を使いこなす

物知り。

「ははは、違いないね」

と、スバルが笑つてるところで奥から走ってくる人影。あれがゴン太、よく食べ、よく遅刻する。

「ごめん委員長。なんせ朝の牛丼が・・・」

「行くわよ。もう！」

と、一行はスピカモールへ中学校で使う物を買いに行くのだった。

そして…スピカモールについた。

「ふひ」。まずは教科書のプログラム取りにいくつよ」

「えっ、まずは牛丼」お黙りゴン太！スバル君の言うとおりにしなさい！」

というわけでプログラムやら、制服やら、靴やら、（ゴン太は牛丼用の紅シヨウガモ）を買った。

「よし買い物終わりね。つぎは・・・」

「委員長！お楽しみのあれですよ」

「そつだぜ！このために朝牛丼食ってきたんだから」



「えっ？なに？なにがあるの？」

「まさか！スバル君、ミソラちゃんのライブのチケット持っていない？」

「え〜〜〜〜！今日ライブって聞いてないよ！キザマロ教えてよ」

「スバルはライブなしだな。可哀そうに。」

『ふっドンマイだなスバル』

「うわ〜。ブラザーのくせにわすれるなんて。スバル君」

そしてライブ二時間前、スバルだけ帰宅となった・・・

「はあ〜。ミソラちゃん怒ってるかな？ライブ来てねーって言われてたし・・・」

『お前が悪いな。まあ帰るしかねーだろ』

とスバルは帰宅することになった

## 中学校の準備（後書き）

長いかな？まあいいでしょう

ライブ前・・・(前書き)

ふう、連投で あ、後こころ辺戦闘ないんで

ライブ前・・・

バス停にスバルがいた時に電話がきた

「ん？だれだろ？ ブラウズ！」

「すゝばるゝくん！！なんでライブ会場にいないの！来てって言ったよね！」

この女の子こそトップアイドルで「自称戦うアイドル」、響ミソラ。電波変換でハープノートになる。

「ごめん！・・・（忘れてたなんて言えないし、どうしょ？あ、そうだ！）チッチケットが売り切れて てさ・・・」

「はあゝ。スバルくん、忘れてたんでしょ・・・特等席用意してるってメールしたじゃん」

「えっ、じゃあライブ見られるの・・・やったゝ 今すぐ行く」

「今どこにいるの？できれば楽屋に来てほしいんだけど」

「いま、スピカモールのバス停だからすぐ行くよ」

「うん 早く来てね」

というわけでスバルもライブを見れることとなった。

そして楽屋。

「失礼します。あ、ミソラちゃん久しぶり！」

「何が久しぶりよ！ライブ忘れてたくせに！」

「（まずい怒ってる）ごめん！ほんとに」

「ふふっ、怒ってないよ 演技」

「え、怒ってないの。（よかった）」

「おい、ミソラ。お前がいるってことは・・・」

「何よ人を悪党扱いして、ウォーロック」

「っげ、出たハープ」

ハープとは、FM星人でミソラのパートナーである。

「スバル君、あと1時間半くらい時間あるし。モールまわんない？」

「いいよ、（ライブ忘れてた貸しがあるし・・・）どこいく？」

「うーんと・・・とりあえずパフェ食べて、それから駄菓子屋に・・・」

デート気分の二人であった。そしてライブ直前まで飛ぶのであった。

ライブ前・・・(後書き)

次はライブですね

## ライブ！（前書き）

戦闘しばらくないって言ってたけど 次やる予定だったんでした  
すみません

ライブ！

「み〜ん〜な〜！来てくれてありがとう！盛り上がっていくよ〜」

「委員長始まりましたよー！」

「うおー！ー！ー！始まった！ー！ミソラちゃん！ー！」

「ゴン太！うるさい！」

委員長グループは一番前の列。と、言うのもキザマロがチケット発売日前日から店に並んでいたからである。

少し離れて、舞台裏。ここにスバルはいた・・・

「うわ〜。横から見ると違うねー。こんな近くで見られるなんて！」

「そうだな！でも俺は見れないわ・・・」

「なんでロック？」

「いや・・・ハーブが・・・」

「お呼びかしら？いくわよっ」

「いやだ〜！助けてくれスバル！う、ウワ〜」

地球は救えても、ロックを地獄からは救えないスバルであった・・・



•  
そんな時・・・

「ドガーン！！！」

「ばっ爆発？ロック行こう、っていないか？」

『おう、いるぜ。逃げてきた』

「んじゃ行くよ、トランスコード003、シューティング・スター・  
ロックマン！」

ウェーブロードに行くと、ジャミンガーがいた。

『所詮クズか、久しぶりの戦闘腕になるぜ！』

「ロックはいつも勝手にウイルス撃退してるじゃん！」

『ロックマンとしての戦闘だよ、ひさしぶりなのは！』

「いくよ！ロック」

『おう！』

ライブ！（後書き）

次はジャミンガー戦 余裕です

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4615z/>

---

流星のロックマン 4 ~

?? mystery ~

2011年12月16日17時52分発行